

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	消防団運営事業	会計	一般会計	事業No.	646	施策順No.	41-031
		事業種別	政策・その他	予算科目	9-1-2-11-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	危機管理・交通安全対策室		
施策	41 災害対策の推進			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①市民の生命財産						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	飯田市の人口(人)		107259	106630	105036	105036	
対象をどう変えるか	意図	生命・財産を守る						目標達成度 A
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	
		消防団員を確保運営する。定数1395(人)	1361	1353	1370	1395	1395	1395
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	消防団における活動費用及び福利厚生等に対してきちんとした事務事業を履行することができた。9次防を堅実に履行し、10次防により更なる進捗計画を作成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 消防団活動 2 消防団員の、災害及び訓練等の活動運営経費及び研修費用、活動を担保する共済基金への加入 3 活動拠点となる詰所の維持管理 4 消防団員出勤手当等の交付金 5 消防団活動に必要な装備品購入		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 消防団活動 2 飯伊消防協会への負担 3 退職報償金支給 4 消防団交付金取扱	1 活動のべ人員 2 負担金額 3 退職者数 4 交付金額	1 50,000人 2 1,354千円 3 160人 4 104,163千円
23年度実施計画	1 消防団活動 2 飯伊消防協会への負担 3 活動資機材備品購入 4 退職報償金支給 5 消防団交付金取扱 6 第10次消防力(消防団)整備計画に基づく装備品等	1 活動のべ人員 2 負担金額 3 救急訓練機材 4 退職者数 5 交付金額 6 第10次消防力(消防団)整備計画に基づく装備品等(編み上げ靴・雨着・防火衣・夜行チョッキ・キャップライト・背負式水囊型消火用具)	1 50,000人 2 1,354千円 3 0 4 160人 5 104,163千円 6

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(そ) 諸収入
	国庫支出金						
	県支出金						
	起債						
	その他		26,519	26,351	20,458		
一般財源		154,630	154,402	156,393			
計(A)		181,149	180,753	176,851			
	正規職員所要時間			2,000			
	臨時職員等所要時間						
	人件費計(B)			7,152			
	トータルコスト A+B			187,905			

4 事業に対する市民や議会の意見

・消防団は、地域防災力の要であり有事の際はもとより行方不明者の捜索など広範な活動を行っており、市民はもとより市内在住者以外の関係者などからも活動への謝辞をいただいている。地域における催事などやお祭りの警戒など地域に根ざした活動においても感謝されている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムツ指標
	・市民、市内滞在者(近隣市町村住民含む)、の生命及び財産を水火災や地震から守り、安寧秩序を保持し、さまざまな災害の被害を軽減する。	市民が災害にそなえている割合(%) 火災発生件数(件)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・飯田市第18分団の統廃合事業などによる消防団定数の削減など適正なりストラの結果による団員定数を決定し、随時詰所の維持管理を行ってきた。
	後期に向けた課題	・飯田市第10次消防力(消防団)整備計画による安全装備品などの増強計画はされているが、大震災などへのや対応のためにはまだ不十分である。消防団員の定数割れ及び低減は顕著であり今後の課題である。また、全国でも稀な平均年齢の若さを維持をできるかも今後の課題である。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・飯田市第10次消防力(消防団)整備計画の策定により諸問題解決を試みてきた。
	後期に向けた課題	・本部詰所建設(龍江芦ノ口、南信濃本町)に伴う出場体制の見直し、市役所庁舎への団係・団本部の完全移転、安全・衛生管理体制の徹底、メンタルヘルスの充実などの具体化。
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	・コスト削減はなじみにくい事業である。行方不明者捜索など依頼者からの弁当及び茶代のみで出勤していることを鑑みると対費用効果に見るコスト削減は実施されていると考える。
	後期に向けた課題	・支援団員などの追加導入など実質的なコストダウンを模索する。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・災害対応において、多くの市民及び関係者から感謝されたことから適切な対応であった。
	後期に向けた課題	・特異家出人捜索・行方不明案件及び隣接市町村へのお出場で消防団活動のグレーゾーンについて、整理していく必要がある。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①主体は消防団員、地域住民及び関係団体であり、災害対応や減災を行い安全・安心の確保に役割を發揮してきた。 ②その主体が役割を發揮するために、行政としてさまざまな事業、会議及び活動などスムーズな運営を図れるようにイニシアティブを發揮した。
	後期に向けた課題	・今後も着実な運営を心掛ける。
全体を通じて	4年間の振り返り	・消防団は、災害対応のみならず地域の活性化などに果たす役割は大きい。若者組織が市民・関係者の安全安心を守っていくことに行政としてきちんとした働きかけを行ってきた。
	後期に向けた課題	・団員不足等は深刻な課題であり、団員確保が困難なこと。 ・自助努力以外に福利厚生の上昇、事業内容の見直し及びソフトウェアの改善が必要なこと。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------